教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2
教科書等	数研出版 改訂版 「生物基礎」(生基 316)		教材等	数研出版 三訂版 生物図録 授業担当者	生物図録 お手製演習プリント
目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物と生物現象への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	観察・実験の技能・表現	知識・理解	
観点の趣旨	生物学的な事物・現象に関心、探究心を持ち、意欲的にそれらを探究し、自ら学習する姿勢・態度を身につけているか。	生物学的な事物・現象に問題を見出し、実験、観察などで事象を実証的、論理的に考えたり、分析したり、また総合的に考え、科学的に判断したりできるか。	生物の実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果及びそこから導き出した考えを的確に表現することができるか。	授業や実験観察などを通して、生物に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、身につけているか。	
評価方法	授業への取り組み	○			
	ノートの記載内容		○		
	観察・実験等	○	○	○	
	教科書・問題集の問題		○		○
	考査		○	○	○
学期	月	単元内容(単元名)	具体的な学習内容		
前期	4	第1編 生物と遺伝子			
		第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性	生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを学習する。		
	5	第2節 エネルギーと代謝 第3節 光合成と呼吸 章末問題	酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーをとりだすことを学習する。		
		いろいろな生物の観察(実験)	実際の細胞の観察を通して、生物の基本的な共通点と相違点を学ぶ。 実験「オオカナダモの細胞の観察」 実験「タマネギの細胞の染色・観察」		
	6	第2章 遺伝子とのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報の発現	遺伝子の本体であるDNAの構造を学び、遺伝情報の本質はそのDNAの塩基配列であることを学ぶ。また転写と翻訳の概念から、生物の生命活動の基本であるタンパク質の合成について学習する。 実験「DNAの抽出」		
		7	第3節 遺伝情報の分配 章末問題	遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことを学習する。	
	後期	9 10	第2編 生物の体内環境の維持		
第3章 生物の体内環境 第1節 体液という体内環境 第2節 腎臓と肝臓			体内環境がいかんして一定の範囲内で保たれているのか、また体内ではどのようなしくみがはたらき、どのように調節が行われているのかを学習する。 私たち人間の体に関わる内容について、身近な現象や話題		
11 12		第3節 神経とホルモンによる調節 第4節 免疫 章末問題	を取り上げながら、自身の体に関する知識として学習する。		

後期	1 2	第3編 生物の多様性と生態系	
		第4章 植生の多様性と分布 第1節 さまざまな植生 第2節 植生の遷移 第3節 気候とバイオーム 章末問題	植生について、その構造や遷移とそのしくみについて学習する。また地球上のさまざまなバイオームの特徴とその分布について学び、生物群集の分布が環境の要因によって形成されていくことを学習する。
	3	第5章 生態系とその保全 第1節 生態系 第2節 物質循環とエネルギーの流れ 第3節 生態系のバランス 第4節 人間活動と生態系の保全 章末問題	生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。生態系は生物相互のみならず環境的要因によってバランス調節されていること、そのバランスは人類によって大きな影響を受けていることを、身近な現象や話題を取り上げながら学習する。

教科名	理科	科目名	生物		単位数	3
教科書等	数研出版「生物」(生物 303)		教材等	数研出版「生物図録」		
目 標	生物基礎で学習した内容をふまえて、生物と生物現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、生物学的な探究の方法を身に付けさせるようにするとともに、生物や生物現象を分析的、総合的に考察する能力を育成し、科学的な自然観を育てる。					
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断		観察・実験の技能・表現	知識・理解
観点の趣旨	生物学的な事物・現象に関心、探究心を持ち、意欲的にそれらを探究し、自ら学習する姿勢・態度を身につけているか。		生物学的な事物・現象に問題を見出し、実験、観察などで事象を実証的、論理的に考えたり、分析したり、また総合的に考え、科学的に判断したりできるか。		生物の実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果及びそこから導き出した考えを的確に表現することができるか。	授業や実験観察などを通して、生物に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、身につけているか。
評価方法	授業への取り組み		○			
	ノートに記載内容		○			
	観察・実験等		○		○	
	教科書・問題集の問題		○			○
	考査		○		○	○
学期	月	単元内容(単元名)		具体的な学習内容		
前期	4	第1編 生命現象と物質		生命現象を支える物質の働きについて観察、実験などを通して探究し、タンパク質や核酸などの物質の働きを理解させ、生命現象を分子レベルでとらえさせる。		
		第1章 細胞と分子 1 生体の構成 2 タンパク質の構造と性質 3 酵素の働き		生命現象や細胞の働きを細胞に局在するタンパク質の性質やはたらきから理解する。 酵素の性質についての探求活動を通して、科学的な思考の方法、現象とタンパク質の分子レベルでの特徴を結びつけて考える。		
	5	4 細胞の構造と働き 5 細胞の活動とタンパク質 第2章 代謝 1 代謝とエネルギー 2 呼吸と発酵		呼吸や光合成、窒素同化といった代謝について詳しく学習し、生命現象を分子レベルでとらえる。 生体内で行われる化学反応が生命活動の根幹であることを理解する。		
		6	3 光合成 4 窒素同化 第3章 遺伝情報の発現 1 DNAの構造と複製 2 遺伝情報の発現		生命現象を支える代表的な物質である核酸の構造とそのはたらきを学ぶ。 DNAの複製や遺伝情報の発現とその調節を学習する。 遺伝子を扱った技術について理解する。生命現象を分子レベルでとらえる。	
	7		3 遺伝子の発現調節 4 バイオテクノロジー		タンパク質と関連づけて、生命現象を総合的に理解する。	
後期	9 10	第2編 生殖と発生		生物の生殖や発生について観察、実験などを通して探究し、動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解させる。		
		第4章 生殖と発生 1 遺伝子と染色体 2 減数分裂と遺伝情報の分配		遺伝子と染色体の関係を理解し、動物と植物の配偶子形成を理解する。		
	11 12	3 遺伝子の多様な組み合わせ 4 動物の配偶子形成と受精		受精による遺伝子の組み合わせ、および、独立と連鎖、遺伝子の組換えについて学習する		

	5 初期発生の過程 6 細胞の分化と形態形成	動物の受精や発生の過程を理解するとともに、遺伝子のはたらきについても理解を深める。
1 2	7 植物の発生	配偶子形成から受精までの一連の過程および器官形成の過程を、被子植物を例に学ぶ。そのうえで、植物の器官分化のしくみを調節する遺伝子の存在について学習する。
	第3編 生物の環境応答	環境の変化に生物が反応していることについて観察、実験などを通して探究し、生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解させる。
	第5章 動物の反応と行動 1 ニューロンとその興奮 2 刺激の受容 3 情報の統合 4 刺激の反応 5 動物の行動	動物が外界からの刺激を受け取り、それに応じて反応する仕組みを学習する。それを基礎に動物の行動について学習する。
3	生物基礎演習	センター試験対策を開始する。

教科名	理科	科目名	生物（文理系）		単位数	2
教科書等	数研出版「生物」（生物 303）		教材等	第一学習社「セミナー生物基礎＋生物」		
目標	生物基礎や生物で学習した内容について、演習問題等を解くことで重要事項を確認し、知識を確かなものにしてセンター試験に対応する学力をつける。					
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断		観察・実験の技能・表現	知識・理解
観点の趣旨	生物学的な事物・現象に関心，探究心を持ち，意欲的にそれらを探究し，自ら学習する姿勢・態度を身につけているか。		生物学的な事物・現象に問題を見出し，実験，観察などで事象を実証的，論理的に考えたり，分析したり，また総合的に考え，科学的に判断したりできるか。		生物の実験の技能を習得するとともに，自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身につけ，それらの過程や結果及びそこから導き出した考えを的確に表現することができるか。	授業や実験観察などを通して，生物に関する事物・現象について，基本的な概念や，原理・法則を理解し，身につけているか。
評価方法	授業への取り組み	○				
	ノートの記載内容	○	○			
	観察・実験等					
	教科書・問題集の問題		○			○
	考査		○		○	○
学期	月	単元内容（単元名）		具体的な学習内容		
前期	4 5	第4編 生態と環境 1 個体群 ～ 4 生物群集		生物基礎 第3編 生物の多様性と生態系の復習から，毎時間，授業担当者作成の問題プリントを用いて，演習形式で授業を進める。		
		5 生態系における物質生産 6 生態系と生物多様性		生物基礎 第3編 生物の多様性と生態系の復習から，毎時間，担当者作成の問題プリントを用いて，演習形式で授業を進める。		
	6 7	探求活動		授業担当者作成の問題プリントを用いて，センター試験に対する傾向と対策を考察し，まとめる。		
	9 10	探求活動		センター試験の過去問などを扱い，応用力を養う。		
後期	11 12 1	探求活動		センター演習を行い，センター試験での実践力を養う。		

教科名	理科	科目名	生物（後期4時間）		単位数	2
教科書等	数研出版「生物」(生物303)		教材等	第一学習社「セミナー生物」 数研出版「生物図録」		
目標	生物基礎で学習した内容をふまえて、生物と生物現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、生物学的な探究の方法を身に付けさせるようにするとともに、生物や生物現象を分析的、総合的に考察する能力を育成し、科学的な自然観を育てる。					
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断		観察・実験の技能・表現	知識・理解
観点の趣旨	生物学的な事物・現象に関心，探究心を持ち，意欲的にそれらを探究し，自ら学習する姿勢・態度を身につけているか。		生物学的な事物・現象に問題を見出し，実験，観察などで事象を実証的，論理的に考えたり，分析したり，また総合的に考え，科学的に判断したりできるか。		生物の実験の技能を習得するとともに，自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身につけ，それらの過程や結果及びそこから導き出した考えを的確に表現することができるか。	授業や実験観察などを通して，生物に関する事物・現象について，基本的な概念や，原理・法則を理解し，身につけているか。
評価方法	授業への取り組み		○			
	ノートの記載内容		○			
	観察・実験等		○		○	
	教科書・問題集の問題		○			○
	考査		○		○	○
学期	月	単元内容（単元名）		具体的な学習内容		
後期	10	第1編 生命現象と物質		生命現象を支える物質の働きについて観察，実験などを通して探究し，タンパク質や核酸などの物質の働きを理解させ，生命現象を分子レベルでとらえさせる。		
		第1章 細胞と分子		生命現象や細胞の働きを細胞に局在するタンパク質の性質やはたらきから理解する。		
		1 生体の構成 2 タンパク質の構造と性質 3 酵素の働き		酵素の性質についての探求活動を通して，科学的な思考の方法，現象とタンパク質の分子レベルでの特徴を結びつけて考える。		
	11	4 細胞の構造と働き 5 細胞の活動とタンパク質		呼吸や光合成，窒素同化といった代謝について詳しく学習し，生命現象を分子レベルでとらえる。		
		第2章 代謝		生体内で行われる化学反応が生命活動の根幹であることを理解する。		
	12	1 代謝とエネルギー 2 呼吸と発酵				
		3 光合成 4 窒素同化		光合成は，光エネルギーを化学エネルギーに変換し，無機物から有機物を合成する反応であることを学習する。		
		第3章 遺伝情報の発現		生命現象を支える代表的な物質である核酸の構造とそのはたらきを学ぶ。		
		1 DNAの構造と複製 2 遺伝情報の発現 3 遺伝子の発現調節 4 バイオテクノロジー		DNAの複製や遺伝情報の発現とその調節を学習する。 遺伝子を扱った技術について理解する。生命現象を分子レベルでとらえる。 タンパク質と関連づけて，生命現象を総合的に理解する。		
	1	第2編 生殖と発生		生物の生殖や発生について観察，実験などを通して探究し，動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解させる。		
第4章 生殖と発生		遺伝子と染色体の関係を理解し，動物と植物の配偶子形成を理解する。				
1		1 遺伝子と染色体 2 減数分裂と遺伝情報の分配				

2	3 遺伝子の多様な組み合わせ	受精による遺伝子の組み合わせ、および、独立と連鎖、遺伝子の組換えについて学習する 動物の受精や発生の過程を理解するとともに、遺伝子のはたらきについても理解を深める。
	4 動物の配偶子形成と受精	
5 初期発生の過程		
6 細胞の分化と形態形成		
3	7 植物の発生	配偶子形成から受精までの一連の過程および器官形成の過程を、被子植物を例に学ぶ。そのうえで、植物の器官分化のしくみを調節する遺伝子の存在について学習する。
	第3編 生物の環境応答	環境の変化に生物が反応していることについて観察、実験などを通して探究し、生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解させる。
	第5章 動物の反応と行動	動物が外界からの刺激を受け取り、それに応じて反応する仕組みを学習する。それを基礎に動物の行動について学習する。
1 ニューロンとその興奮		
2 刺激の受容		
3 情報の統合		
4 刺激の反応		
	5 動物の行動	

教科名	理科	科目名	生物(理系)		単位数	5
教科書等	数研出版「生物」(生物303)		教材等	第一学習社「セミナー生物」		
目標	生物基礎で学習した内容をふまえて、生物と生物現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、生物学的な探究の方法を身に付けさせるようにするとともに、生物や生物現象を分析的、総合的に考察する能力を育成し、科学的な自然観を育てる。					
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断		観察・実験の技能・表現	知識・理解
観点の趣旨	生物学的な事物・現象に関心、探究心を持ち、意欲的にそれらを探究し、自ら学習する姿勢・態度を身につけようとしているか。		生物学的な事物・現象に問題を見出し、実験、観察などで事象を実証的、論理的に考えたり、分析したり、また総合的に考え、科学的に判断したりできるか。		生物の実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果及びそこから導き出した考えを的確に表現することができるか。	授業や実験観察などを通して、生物に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、身につけているか。
評価方法	授業への取り組み	○				
	ノートの記載内容	○	○			
	観察・実験等	○	○	○		
	教科書・問題集の問題		○			○
	考査		○		○	○
学期	月	単元内容(単元名)		具体的な学習内容		
前期	4	第2編 生殖と発生		生物の生殖や発生について観察、実験などを通して探究し、動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解させる。		
		第4章 生殖と発生		配偶子形成・受精と初期発生の過程を学習する。また、細胞の分化や形態形成のしくみにつて、誘導現象を中心に理解させる。前後軸形成のしくみと形態形成を調整する遺伝子について学習する。植物の配偶子形成・受精と胚発生の過程を学習し、期間分化における遺伝子の働きについて理解させる。		
		4 動物の配偶子形成と受精 5 初期発生の過程 6 細胞の分化と形態形成 7 植物の発生				
	5	第3編 生物の環境応答		生物が外界からの刺激を受け取り、それに応じて反応する仕組みを学習する。それを基礎に動物の行動について学習する。		
		第5章 動物の反応と行動 1 ニューロンとその興奮 2 刺激の受容 3 情報の統合 4 刺激の反応 5 動物の行動		ニューロンの基本的な構造とその働きを理解させる。受容器で受け取られた刺激が、神経系を介して、効果器へと至る経路を学習する。その際、刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を中心に上げ、効果器に関しては筋肉を中心に上げる。動物の行動については、神経系における情報の流れと館関連づけながら扱う。		
	6	第6章 植物の環境応答 1 植物の反応 2 成長の調節 3 花芽形成と発芽の調節		植物は生長を調節するなどして環境に応答していることを理解させる。その上で、環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを学習する。		
	7	第4編 生態と環境		生物基礎の生態系とその保全で学習した知識をもとに、生態系を構成する個体群と生物群集、生態系における物質生産、生態と生物多様性について学習する。		

		<p>第7章 生物群集と生態系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個体群 2 個体群内の個体間の関係 3 異種個体群間の関係 4 生物群集 5 生態系における物質生産 6 生態系と生物多様性 	<p>個体群や生物群集についてそれぞれの特集を学習する。その際、生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており、それぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしている。物質生産については、その特徴や各栄養段階とエネルギー効率の関係について学習する。さらに、生物多様性に影響を与える要因を理解させ、生物多様性の重要性を認識させる。</p>
後期	9	<p>第5編 生物の進化と系統</p>	<p>進化について、さまざまな観点から学習することにより、生物理解の大きな柱とする。</p>
		<p>第8章 生命の起源と進化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生命の起源 2 生物の変遷 3 進化のしくみ 	<p>生命の起源および生物の変遷を学習する。その際、地球環境の変化と密接に関係していることを理解させる。生物の進化については、そのしくみを学習する。その上で、分子進化の概念や種分化のしくみについても学習する。</p>
	10	<p>第9章 生物の系統</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生物の分類と系統 2 原核生物 3 原生生物 4 植物 5 動物 6 菌類 	<p>生物の種類は多様であるが、それらが系統によって分類できることを理解させる。その際、形態的な特徴に基づいた分類ばかりでなく、DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列といった分子データにもとづいて系統関係が調べられていることについても扱う。個々の分類群については、その概要を学習する。</p>
		<p>11 12 1 2 3</p> <p>生物演習</p>	<p>センター試験対策を開始する。 二次試験対策演習を開始する。</p>

教科名	理科	科目名	地学基礎		単位数	2
教科書等	啓林館「地学基礎」(地基303)		教材等	授業プリント 実教出版「ベストフィット地学基礎」		
目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断		観察・実験の技能・表現	知識・理解
観点の趣旨	地学的な事物・現象に関心、探究心をもち、意欲的にそれらを探究し、自ら学習する姿勢・態度を身につけようとしているか。		地学的な事物・現象に問題を見出し、実験、観察などで事象を実証的、論理的に考えたり、分析したり、また総合的に考え、科学的に判断したりできるか。		地学の実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果及びそこから導き出した考えを的確に表現することができるか。	授業や実験観察などを通して、地学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、身につけているか。
評価方法	授業への取り組み		○			
	ノートの記載内容		○		○	○
	観察・実験等		○		○	
	教科書・問題集の問題				○	○
	考査				○	○
学期	月	単元内容(単元名)		具体的な学習内容		
前期	4	第1部 固体地球とその変動(17)				
		第1章 地球(4) 第1節 地球の概観 第2節 地球の内部構造		地球の概観について学び、その内部構造について理解する。 やってみよう「地球の形」 実習1.「岩石や金属の密度を測定して地球の層構造を考える」		
	5 6	第2章 活動する地球(9)		プレートと地球の活動について理解し、地震や火山活動、火成岩の形成について学ぶ。 実習2.「プレートと地球の活動の関係を調べる」		
		第1節 プレートと地球の活動 第2節 地震 第3節 火山活動と火成岩の形成 部末問題(1)		やってみよう「衛星画像で断層を探そう」 やってみよう「火成岩の組織を観察しよう」		
		第2部 移り変わる地球(16)				
	6 7	第1章 地球史の読み方(7)		堆積岩とその形成や地層と地質構造について学び、地球の歴史の組み立てについて理解する。		
第1節 堆積岩とその形成 第2節 地層と地質構造 第3節 地球の歴史の組み立て		やってみよう「堆積岩を観察しよう」 やってみよう「地層中の記録を調べよう」 実習3.「地層の観察」				
後期	9 10	第2章 地球と生命の進化(6)		古生物の変遷と地球環境の変化について理解し、先カンブリア時代や顕生代について学ぶ。 ビデオ教材の利用		
		第1節 先カンブリア時代 第2節 顕生代 部末問題(1)				
	11	第3部 大気と海洋(21)				
		第1章 大気の構造(3) 第1節 大気圏 第2節 水と気象		大気圏について理解し、水と気象の関係を学ぶ。 実習4.「気温と高度の関係を考える」		
12 1	第2章 太陽放射と大気・海洋の運動(5)		地球全体のエネルギー収支について理解し、大気の大循環や海水の循環について学ぶ。 実習5.「日射量の緯度による違い」 やってみよう「水の上下運動を観察しよう」			
		第1節 地球のエネルギー収支 第2節 大気の大循環 第3節 海水の循環				

	2 3	第3章 日本で見られる季節の気象(3) 第1節 冬から春の気象 第2節 夏から秋の気象第4章	日本で見られる冬から春, 夏から秋への季節の気象について学ぶ。 やってみよう「雲の移動と偏西風の観察」
--	--------	--	--

教科名	理科	科目名	地学基礎		単位数	1
教科書等	啓林館「地学基礎」(地基 303)		教材等	本校鯨作授業プリント 実教出版「ベストフィット 地学基礎」		
目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断		観察・実験の技能・表現	知識・理解
観点の趣旨	地学的な事物・現象に関心、探究心をもち、意欲的にそれらを探究し、自ら学習する姿勢・態度を身につけようとしているか。		地学的な事物・現象に問題を見出し、実験、観察などで事象を実証的、論理的に考えたり、分析したり、また総合的に考え、科学的に判断したりできるか。		地学の実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果及びそこから導き出した考えを的確に表現することができるか。	授業や実験観察などを通して、地学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、身につけているか。
評価方法	授業への取り組み	○				
	ノートの記載内容	○	○	○	○	○
	観察・実験等	○	○	○	○	
	教科書・問題集の問題		○			○
	考査		○		○	○
学期	月	単元内容(単元名)		具体的な学習内容		
前期	4	第4部宇宙の構造				
		第1章 太陽系と太陽		太陽系の構成を学び 地球型惑星と木星型惑星の特徴を知る		
	5 6	第2章 恒星としての太陽の進化		恒星の進化の仕組みや宇宙の構成を知る		
		第3章 銀河系と宇宙		演習問題で理解を深める。		
	6 7	第1章 固体地球とその形成		第1部の復習をおこなう		
		第2章 活動する地球		第2部の復習をおこなう		
後期	9 10	第3部 大気と海洋		第3部の復習をおこなう		
		第1章 大気の構造 第2章 太陽放射と大気・海洋の運動				
	11	センター試験演習				
				総まとめとしての演習を行う		
	12 1	センター試験演習		総まとめとしての演習を行う		